

第4次札幌市食育推進計画案（概要）

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の経緯

(1) 国の動向

令和3年3月に「第4次食育推進基本計画」を策定し、「多様な暮らし・食の循環や環境を意識・食文化の伝承」を踏まえた食育の推進を新たに位置付け。

(2) 札幌市の動き

平成19年に食育基本法に基づく札幌市食育推進会議条例を制定し、平成20年度に「札幌市食育推進計画」(平成20年度～平成24年度)を策定。

第1次食育推進計画では、「食を大切にすることを育みます」を基本理念として、「健康で活力ある人づくり・市民が暮らしやすい環境づくり・市民みんなで作る食文化」を基本目標に掲げ、市民、関係団体、関係機関、行政が連携して、家庭や地域、保育所、幼稚園、学校などで食育を進め、市民の食育活動を支援する食育サポーター制度や、各区では食育推進ネットワーク会議を設置。

第2次食育推進計画(平成25年度～平成29年度)では、第1次食育推進計画を継承し、「さっぽろ食スタイル」を推進。また、若い世代への食育を進める食育事業を開始。

第3次食育推進計画(平成30年度～令和5年度)では、第2次食育推進計画を継承し、市全体での食育の取組を進めること、また、若い世代を中心とした食育の推進、多様な暮らしに対応した食育の推進、健康寿命の延伸につながる食育の推進、食の循環や環境を意識した食育の推進、食文化の継承に向けた食育という国の5つの課題を踏まえて推進。

(3) 策定趣旨

第3次食育推進計画の成果や課題を整理し、市全体での食育の取組を進めること、健康寿命の延伸や持続可能な食生活の推進を目指し、ライフステージやライフスタイルに対応した切れ目のない生涯を通じた食育、また多様な関係機関等と連携した食育の取組を総合的かつ計画的に推進。

2 計画の位置づけ

食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置付け、他の札幌市計画との整合を図る。

3 計画期間

令和5年度(令和6年1月)から令和9年度までの5年間

第2章 前計画の取組と評価

1 前計画の取組

第3次食育推進計画の推進のために、計画に定める「健やかで心豊かな食生活の実現」、「食の循環や環境・安全を意識した食生活」、「食文化の継承と食育推進体制の整備」の基本目標に基づき、延べ132の食育事業を行い、毎年、札幌市食育推進会議において報告し、評価。

2 指標の達成状況

指標	第3次策定時 (平成28年度)	目標値	現状値	評価
①食育に関心を持っている人の割合	67.8%	90%以上	72.4%	○
②朝食を欠食する子どもの割合(小学6年生)	5.8%	0%	7.1%	▼
③朝食を欠食する若い世代の割合(20歳代～30歳代)	25.6%	15%以下	37.5%	▼
④ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の割合	51.9%	75%以上	65.7%	○
⑤野菜の摂取量(幼児:4～5歳児)	168.9g	200g	222.5g	◎
⑥野菜の摂取量(児童:小学3～4年生)	274.0g	280g	206.6g	▼

指 標	第3次策定時 (平成 28 年度)	目標値	現状値	評価
⑦野菜の摂取量(中学生以上)	286.5g	350g 以上	281.9g	△
⑧牛乳・乳製品の摂取量(1 歳以上)	136.4g	150g	143.8g	○
⑨主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合(1日2回以上)(全年代)	55.4%	62%以上	49.2%	▼
⑩主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合(1日2回以上)(20歳代～30歳代)	40.0%	55%以上	34.3%	▼
⑪主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合(1日2回以上)(70歳代以上)	69.4%	75%以上	61.0%	▼
⑫朝食を誰かと一緒にとる子どもの割合(小学5年生)	78.7%	90%以上	80.2%	○
⑬家族や友人、職場や地域の人などと共食する人の割合(全年代)	82.7%	88%以上	78.2%	▼
⑭家族や友人、職場や地域の人などと共食する人の割合(70歳代以上)	72.1%	77%以上	74.3%	○
⑮ゆっくりよく噛んで食べる人の割合	51.1%	55%以上	53.3%	○
⑯生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合	86.9%	95%	93%	○
⑰野菜作りや収穫体験などの「農」体験をした人の割合	36.4%	41.4%	51.5%	◎
⑱サッポロさとらんどに来園者数	70 万人	75 万人	17.6 万人	▼
⑲北海道産食品(米など)や札幌産の食品を利用する人の割合	65.6%	85%以上	74.4%	○
⑳伝統的な食文化(行事食や郷土料理、だしの文化など)に親しむ人の割合(全年代)	77.5%	83%以上	72.7%	▼
㉑伝統的な食文化(行事食や郷土料理、だしの文化など)に親しむ人の割合(20歳代～30歳代)	70.0%	75%以上	64.2%	▼
㉒食育ボランティア数	2,111 人	2,750 人	1,231 人	▼
㉓食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合	35.6%	80%以上	62.6%	○

<全指標の評価 計23>

◎:目標達成…2 / ○:目標達成はしていないが、第3次計画策定時から改善…9 /

△:目標を達成せず、第3次計画策定時から改善していない…1 / ▼:第3次計画策定時から低下…12

3 札幌市の食育の現状と課題

食育への関心	<ul style="list-style-type: none"> 食育に関心を持っている人は、改善は見られたものの、目標値には達していないことから、引き続き、若い世代や子育て世代でもある働く世代を対象とした食育活動を行っていく必要があります。
朝食摂取	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を欠食する人は、他の世代に比べて若い世代や働く世代(20～50歳代)が高い傾向にあります。 60歳以降の朝食の欠食については、高齢者の低栄養予防、フレイル予防の観点から、適正な栄養量や上手な栄養の取り方、運動習慣等の必要性について啓発が必要です。
生活習慣病予防のための食生活について	<p>若い世代や働く世代に対しては、健康的な食生活への関心を高めることが必要なことから、食育関係機関や地域、企業及び食育ボランティア等と連携を図り、無関心層も含めた効果的なアプローチを取り入れた取組を進めていく必要があります。</p> <p>①適正体重の維持等に気をつけた食生活を実践している人の増加 ②減塩 ③野菜摂取量の増加 ④牛乳・乳製品摂取量の増加 ⑤主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の増加</p>

肥満とやせについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肥満の割合は、男性の30歳代から50歳代の働く世代においては、2～3人に一人と高い傾向にあることから改善する必要があります。 ・ やせの割合は、女性の方が高い傾向にあり、特に、20歳代の若い世代で高い傾向にあります。20歳代は子育て世代でもあることから、母子が心身ともに健やかな日常生活を過ごすためにも、バランスのよい豊かな食生活の実践や適正体重の維持に向けて食育を進めていく必要があります。 ・ 男性、女性ともに65歳以降でやせの割合及び低栄養傾向の者(BMI20.0以下)の割合が高くなる傾向にあることから、高齢者に対しては、日常の食生活等において栄養バランスのとれた食事を楽しむことや少量でも上手に栄養をとる方法を周知し、低栄養予防や適正体重の維持、体力の維持増進に努め、フレイル予防を推進していくことが重要です。
誰かと一緒に食事を する共食について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年は新型コロナウイルス感染症の影響や生活の多様化等により、共食や食事の場でのコミュニケーションが難しい状況がありましたが、今後は「新しい生活様式」などを踏まえて、共食のメリットをいかして、子どもの心身の健康保持増進に役立てていくことが必要です。
よく噛んで食べること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ゆっくりよく噛んで食べている人」は、第3次計画の目標値に達していませんが、目標値に向かって推移しており増加傾向にあります。
家庭ごみの量や食品 ロス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯については、第3次計画の目標値にわずかに達していませんが、家庭からの生ごみ減量やリサイクルに向けた取組を推進してきており、平成30年以降は目標値に近い値で横ばいに推移しています。
農業体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜づくりや収穫体験など「農」体験をした人は、前回調査結果の36.4%から51.5%と15.1ポイント増加し、第3次計画の目標値を達成しています。
地元生産物の利用状 況等について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道産や札幌産の食品を利用する人は、第3次計画の目標値に達していませんが、目標値に向かって推移しており増加傾向にあります。
食文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な食文化(行事食や郷土料理、だしの文化)に親しむ人は、第3次計画策定時と比較すると4.8ポイント減少しており、すべての年代で目標値の83%に到達しませんでした。 ・ 伝統的な地域の郷土料理や家庭で受け継がれてきた郷土料理等に親しむことは、年中行事や食事のマナーなどを学び、料理や味、食文化を実感することができる他、心の豊かさをもたらすとともに人や地域との絆を深めます。
食育ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育ボランティアの会員数は減少し、目標から遠ざかっています。 ・ 食育ボランティアをはじめ、地域や団体、企業、食育サポート企業等との連携による、地域に密着した取組の拡充が必要です。
食品の安全性に関する 知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3次計画の目標値に達していませんが、増加傾向にあり目標値に向かって推移しています。

第3章 基本理念と基本目標

基本理念「食を通して豊かな人間性を育みます」

基本目標

- 1 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
- 2 食の循環や環境・安全を意識した食生活の推進と食文化の継承
- 3 食育推進体制の整備

第4章 施策の体系と展開

No.	指標名	現状値	目標値
1	食育に関心を持っている人の割合	72.4%	78%以上
2	朝食を欠食する子どもの割合(小学6年生)	7.1%	0%
3	朝食を欠食する若い世代の割合(20歳代～30歳代)	37.5%	30%以下
4	ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の割合	65.7%	75%以上
5	【新】1日当たりの食塩摂取量(20歳以上)	9.5g	8g以下

No.	指標名	現状値	目標値
6	1日当たりの野菜摂取量(20歳以上)	284.2g	350g以上
7	牛乳・乳製品の摂取量	143.8g	160g
8	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合(1日2回以上)(全年代)	49.2%	60%以上
9	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合(1日2回以上)(20歳代～30歳代)	34.3%	45%以上
10	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合(1日2回以上)(70歳代以上)	61.0%	70%以上
11	朝食を誰かと一緒にとる子どもの割合(小学5年生)	80.2%	90%以上
12	家族や友人、職場や地域の人などと共食する人の割合(全年代)	78.2%	83%以上
13	家族や友人、職場や地域の人などと共食する人の割合(70歳代以上)	74.3%	79%以上
14	ゆっくりよく噛んで食べる人の割合	53.3%	58%以上
15	野菜作りや収穫体験などの「農」体験をした人の割合	51.5%	56%以上
16	さとらんの来園者数	17.6万人	75万人
17	北海道産食品(米など)や札幌産の食品を利用する人の割合	74.4%	80%以上
18	生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合	93%	95%
19	食の安全に取組む事業者等の情報に触れ、飲食店等の利用、食品の購入または調理時の行動を見直した市民の割合(調整中)	33.6%	50%以上
20	伝統的な食文化(行事食や郷土料理、だしの文化など)に親しむ人の割合(全年代)	72.7%	78%以上
21	伝統的な食文化(行事食や郷土料理、だしの文化など)に親しむ人の割合(20歳代～30歳代)	64.2%	70%以上
22	食育ボランティアの数	1,231人	1,500人
23	【新】食育サポート企業等との取組	—	2,000件以上

第5章 計画の推進

1 計画の推進

計画の推進は、市民が主役です。市民一人ひとりが「食」に関心を持ち、積極的に「食育」を実践していくことが必要になっています。

このため、食育の推進にあたっては、家庭、保育所、幼稚園、学校、職場、関係団体、企業、行政などが、それぞれの役割に応じて主体的に活動し、市民運動として取組を推進することが重要です。

2 計画の進行管理・公表

本計画の進行管理にあたっては、施策を効果的・効率的に推進し事業などの達成状況を客観的に把握・評価するとともに、札幌市食育推進会議において審議いたします。

また、本計画の進捗状況や施策の実施状況については、毎年公表します。

3 計画の見直し

本計画の目標年次である令和9年度までに、社会情勢の変化や計画の進捗状況などにより本計画の見直しが必要な場合、札幌市食育推進会議の意見を踏まえ、必要な措置を講じます。